第６学年　体育科学習指導案

令和３年６月９日（水）第５校時　活動場所　体育館
男子１２名　女子９名　計２１名
高知市立十津小学校　教諭　佐古田　智子
岡﨑　隆太

１　単元名　「探れ ROUTE！目指せ GOAL！トンッ！クルンッ！ピタッ！」(跳び箱運動)【器械運動】

２　運動の特性

⑴　一般的特性

〇助走から踏み切った後、腕や首，頭で支持して跳び箱を跳び越したり，回転したり，跳ね下りたりする逆さや非日常的な姿勢をコントロールしながら一連の動きとして技が成し遂げられる運動である。

〇児童一人一人が自分の力に合った技に挑戦し，技ができたときに，楽しさを味わえる運動である。

⑵　児童から見た特性

跳び箱運動の楽しさや喜びを感じる要因	跳び箱運動を遠ざける要因
・支持・体の投げ出し・跳躍といった非日常的な基礎的運動感覚を味わいながら様々な技を達成して（身に付けて）いくことが楽しい。 ・身に付けた技を条件のちがう場で行うことが楽しい。 ・できばえが高まったり，できなかったこと挑戦したりしていくことが楽しい。 ・演技を発表したり，集団演技したりすることが楽しい。	・基礎的運動感覚の習得の差異による体のコントロールの困難さがある。（うまくできない） ・努力してもできないことで意欲を失う。 ・個人的な動きを行うことがこわい。 ・跳び箱から落下することがこわい。 ・手や足が痛い。

３　児童の実態

⑴　知識・技能

これまでの器械運動学習の積み上げにより，器械運動に必要とされる体幹，逆さ，支持，回転，締め，振動といった基礎感覚は身に着けてきている。いろいろな技で跳び箱が跳べるようになりたいという願いを持つ子どもは多く，練習を工夫しながら運動に取り組むことができる。

⑵　思考，判断，表現

体育学習においてより良く動くための体の動かし方に気づくことについては，教師が問いかけることによって自分や友達の動きに着目させてきている。昨年度行ったハードル走の学習では個々にインターバルを選択し，よりよいハードリングについて同質グループでアドバイスし合いながら動きを高めていく姿が見られた。

跳び場運動においては，基礎的な感覚や動きを身に付けながら，いろいろな技を経験しているものの，どうすればできるようになるかを考え，技のダイナミックさや美しさを求めて，より良い体の動かし方を工夫したり，友達に伝えたりする学習には至っていない。本単元では，「どうすればより良い動きができるのか」「どんな工夫が必要なのか」を考えさせる場を設定する必要がある。

⑶　主体的に学習に取り組む態度

年度当初の体育授業についての診断的授業評価結果は，すべての項目において高い数値が出ており，体育授業に関して肯定的な意識の高い集団である。しかし，項目別で見ると運動目標に関わる【できる】の項目において他の３観点より若干低い結果となっている。特に運動有能感や運動への自信についての意識や実感が低い傾向があり、段階的に動きの獲得と達成感を味わわせる場づくりや学習過程の工夫と手立てが必要である。

＜態度・意識面事前アンケート＞

項目	全体評価	評点
楽しむ	１４．５	５
わかる	１３．５	５
できる	１１．４	４
まもる	１４．９	５
合計	５４．３	

(4) 跳び箱運動遊びに関するアンケート・技能面の実態

問	体育の学習は好きですか。	はい	14	どちらかというとはい	5	どちらかというといいえ	0	いいえ	2
問	跳び箱運動の学習は好きですか。	はい	9	どちらかというとはい	5	どちらかというといいえ	4	いいえ	3
〈理由〉									

問	跳び箱運動の学習をしていて，楽しいと感じることはどんなことですか。				
する	跳び箱をいろいろな技で跳ぶこと	13	見る	いろいろな技の行い方を見ること	12
	できる技が上手になること	18		手本となる友だちの動きを見ること	15
	できなかった技ができるようになること	18		できばえを友だちといっしょに見合うこと	15
	できそうな技に挑戦すること	16	支える	がんばっている友達を励ますこと	19
	ともだちといっしょに練習すること	18		自分が考えたこと（アドバイス）を仲間に伝えること	15
	自分のめあてをきめてすること	14		自分のかかわりによって友達ができるようになること	15
	集団で連続して跳んだり，演技したりすること	14	知る	より良い体の動かし方を知ること	17
				いろいろな動きの行い方を知ること	16
				めあてを解決するための練習の方法を知ること	16

技の習得実態	開脚跳び	縦９	横６	かかえこみ	縦５	横４	台上前転	13	はね跳び	頭５	首５

４　教師の指導観及び研究テーマとの関わり

研究主題	たのしい　できそう　いっしょにもっと！　運動好きな十津っ子	
研究仮説	「運動の特性（楽しさ・おもしろさ）にふれる学びをつくることができれば体育の学ぶよろこびを感じ，運動好きな十津っ子に伸びていくであろう。」	
手立て１ 単元(教材）デザイン	**知識及び技能** ／ **思考力，判断力，表現力等** ／ **学びに向かう力，人間性等**	非日常的な運動である跳び箱運動の技に挑戦し，できる技を多くしたり，一つの技のできばえを高めたりしていく中で運動の特性にふれられるよう単元構成する。助走から踏み切り，着手して着地する運動の順次性の中に①助走②予備踏み切り③両足踏み切り④体の投げ出し⑤着手⑥突き放し⑦両足着地という７つの運動局面を知り，技がどのように発展しているかを示したルートマップをもとに自己の挑戦課題を見つけ，めあてを持って技の習得に取り組むことができるようにする。本単元では技の発展が分かりやすく、課題に応じた多様な練習方法を選択できる回転系の技に取り組む。
手立て２ かかわりデザイン	**知識及び技能** ／ **思考力，判断力，表現力等** ／ **学びに向かう力，人間性等**	技を習得する場面では、できばえ（正確さ，大きさ，美しさ等）を高めるコツを伝え合ったり互いの動きを見合ったりしながら運動に取り組めるようにする。それぞれ自分の力に合った練習の場を選択し，友だちと協力しながら，今できる技のできばえを高めたり，新しい技に挑戦したりしながら学習を進めていく。その際，技の難易に関わって，個々の児童がその実現に向かって目標とできる技能の達成基準を示し，児童が相互にできばえについて評価し合えるようにする。
手立て３ 環境デザイン	**知識及び技能** ／ **思考力，判断力，表現力等** ／ **学びに向かう力，人間性等**	運動の方法を理解しながら，自分の今の動きと目指す方向性を見出し，目的をもって課題に取り組めるような学習情報を準備する。「腕による体の支持」「高所からの飛び降り」「体の投げ出しからの腕支持」「腕を支点にした体重移動」などの力や感覚を必要とするため元になる動きや下位の動きを認識した上で体験させながら、段階的に技の習得に向けて取り組めるような場を準備する。また、苦手意識のある児童が自己選択して取り組むことができるやさしい技、やさしい場を設定する。
手立て４ フィードバックデザイン	**知識及び技能** ／ **思考力，判断力，表現力等** ／ **学びに向かう力，人間性等**	試技を行いながら目指す動きのできばえについてフィードバックできるよう個々のめあて意識を明確に持たせる。 自分や友達が見つけたコツを伝え合う中で，よりよい動きへと高められたかどうか、また，よりよい動きを求める中で友だちとつながり，運動のおもしろさを味わうことができたかどうかについてふりかえりながらする・みる・知る・支えるといった見方・考え方を価値づけていく。

５　単元の目標

⑴跳び箱運動の行い方を理解するとともに，回転系の基本的な技を安定して行ったり，発展技を行ったりすることができるようにする。【知識及び技能】

⑵自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力，判断力，表現力等】

⑶運動に積極的に取り組み，約束を守り助け合って運動をしたり，仲間の考えや取組を認めたり，場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。【学びに向かう力，人間性等】

６　学習活動に即した評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①伸膝台上前転の行い方を理解するとともに，足を伸ばしたまま腰の位置を高く保って着手し，前方に回転して着地することができる。 ②首はね跳びの行い方を理解するとともに，両手で支えながら後頭部をつき，尻が頭を越えたら腕と腰を伸ばし，体を反らせながら回転することができる。 ③頭はね跳びの行い方を理解するとともに，両手で支えながら頭頂部をつき，尻が頭を越えたら腕と腰を伸ばし，体を反らせながら回転することができる。	①自分の課題に応じた練習の場や段階を選んでいる。 ②友達の動きを確認したり，友達の動きにアドバイスしたりしている。	①基本的な技や発展的な技の練習に進んで取り組もうとしている。 ②技や演技を行うなかでわかったことを伝えたり，課題の解決方法を工夫したりする際に，仲間の考えや取組を認めている。 ③場の安全に気をつけて取り組んでいる。

７　単元の計画

⑴ 領域の取り上げ方と運動種目※年間カリキュラム参照

(2) 単元と評価の計画

<table>
<tr><th>時間</th><th>1</th><th>2</th><th>3（本時）</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th></tr>
<tr><td rowspan="2">学習課題</td><td colspan="6">【単元を通しての課題】ルートマップをもとにした自己の挑戦課題を持ち，よりよい動きの習得に向けた練習を選択する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">学習１　自分のめあてを持って、回転系の技にチャレンジし，できばえを高めよう。
※第１時はオリエンテーション　【台上前転】　【伸膝台上前転】　【首はね跳び】　　【頭はね跳び】</td><td>学習２　跳び箱競技会しよう！</td></tr>
<tr><td rowspan="5">学習内容</td><td rowspan="2">○場の準備の仕方を知る。
(持ち方，配置位置，方向等)</td><td colspan="5">場づくり・整列・あいさつ</td></tr>
<tr><td colspan="5">○基礎感覚づくりを行う。　・カエル逆立ち　・ペア，トリオ馬跳び　・　トントン前転　・首倒立（アンテナ）　・頭倒立　・倒立ブリッジ（アンテナブリッジ）など
○グループ連続跳びを行う。　・異質？人グループ　・全員</td></tr>
<tr><td colspan="6">○本時のめあてを確認する。</td></tr>
<tr><td>★オリエンテーション
○きまり，学習の場・安全面について知る
※場の設定（図で掲示）</td><td colspan="4" rowspan="2">ルートマップをもとにした自己の挑戦課題を持ち，よりよい動きの習得に向けた練習を選択しよう。

★運動局面を意識しながら台上前転を上手にしよう。【台上前転】
★膝の伸びを意識しながら腰角度の大きな伸膝台上前転をしよう。【伸膝台上前転】
★「ため」を意識しながら大きな首はね跳びをしよう。【首はね跳び】
★強い腕の突き放しを意識して遠くに着地しよう。【頭はね跳び】

○技の運動局面を知る。
①助走②予備踏み切り③両足踏み切り④体の投げ出し⑤着手⑥突き放し⑦両足着地

○局面動作のポイントをもとにスモールステップで，できばえをたしかめながら練習に取り組む。

○よりよい体の動かし方について考える。
観察ポイント　・着手位置　・接点部位　・回転の仕方　・跳ねのタイミング　・着地位置　等

・手本になる友だちの動きを見る
・全体で気づきを共有する

○できるようになった動きを確かめながらステップアップを目指す。</td><td rowspan="2">できるようになった技を発表しよう。
○発表方法について確認する。

・自分が取り組んできた技の中から発表する技を選択する。

・発表する際の場の設定について選択する。
並列同時　　並列対面
ペア　トリオ　など

・局面動作のポイントをもとにできばえを確認しながら、自己の挑戦課題を明確にして、【台上前転】から発表していく。

○技ごとに発表を行い、互いの伸びを見合う。</td></tr>
<tr><td>○基礎感覚づくりの仕方を知る。
・カエル逆立ち　・ペア，トリオ馬跳び　・　トントン前転　・頭倒立　・倒立ブリッジなど

○学習のねらい・進め方を知る。
・回転系の技のルートマップをもとに【台上前転】【伸膝台上前転】【首はね跳び】【頭はね跳び】から自己の挑戦課題を持ち，動きの習得に取り組むこと。

○ふりかえりの仕方を知る。

○単元のゴールイメージを知る。
・単元を通じてより良い動きに高められたできばえを発表し合うこと</td></tr>
<tr><td colspan="6">○フィードバックタイムを行う。
・本時の学習を振り返って，「全力でがんばって取り組んだこと」「はじめてできるようになったこと」「はじめてわかったこと」「いっしょにやっていてうれしかったこと」などについて取り上げて価値づける。</td></tr>
<tr><td>☆見方・考え方を働かせている児童の姿</td><td>☆楽しく運動するためのきまりに着目し，進んできまりを守りながら活動に取り組む姿。</td><td colspan="4">☆跳び箱運動の特性に着目し，ルートマップ、局面動作のポイントを基に技のできばえを確認し、自己の挑戦課題を持って活動に取り組む姿。
☆跳び箱運動の特性に着目し，7 つの運動局面を意識しながらよりよい動きを目指して活動に取り組む姿。
☆跳び箱運動特性に着目し，友達の動きを観察しながら、よりよい動きにするためのコツやポイントを伝え合い、共有している姿。
☆みんなと一緒に行うことの楽しさに着目し，友達といろいろな練習の場を選択し，よりよい動きを目指して活動に取り組んでいる姿。
☆友だちに認められると楽しさが膨らむことに着目し，友だちの動きや学び方の良さを一生懸命見つけようとする姿。</td><td>☆跳び箱運動の特性に着目し，ルートマップ、局面動作のポイントを基に技のできばえを確認し、自己の挑戦課題を持って活動に取り組む姿。
☆友だちに認められると楽しさが膨らむことに着目し，友だちの動きや学び方の良さを一生懸命見つけようとする姿。</td></tr>
<tr><td>★評価方法</td><td>【主】①③観察・学習カード</td><td>【知・技】①②③観察・学習カード</td><td>【思・判・表】①観察・学習カード</td><td>【知・技】①②③観察・学習カード</td><td>【思・判・表】②観察・学習カード</td><td>【思・判・表】①【主】②
観察・学習カード</td></tr>
<tr><td>●運動が苦手な児童や意欲的でない児童への支援</td><td>●助走から支持跳躍し、着地するといった跳び箱運動の一連の動きに馴染むよう感覚づくりやペアやグループでの馬跳びや開脚跳びでの連続跳びから活動をスタートする。</td><td colspan="4">●高さのある跳び箱の上で回転したり、ほん転したりするための体の動かし方が身に付くように，スモールステップの活動を構成する。
●活動に対して苦手意識のある児童や，意欲的でない児童の支えとなるように，同じ練習に取り組んでいる友達同士でお互いの動きの良さやがんばりを認め合う。
●ルートマップや学習カードを使って意欲を高めながら、個々がめあて意識をもって取り組めるように視覚支援を行う。
●フィードバックタイムを設定して，友だちの動きの良さや頑張りを認め合い、クラス全体で価値共有する。</td><td>●個人的な種目の発表の形式をペアやトリオで行う多様な形にすることでめあて意識を持ち、仲間とともに認め合いながら取り組めるようにする。、</td></tr>
</table>

８　本時の学習と指導（３／６時）

(1)　ねらい

ルートマップをもとにした自己の挑戦課題を持ち，よりよい動きの習得に向けた練習を選択することができる。

（思考力，判断力，表現力等）

(2)　準備物

跳び箱，マット，ロイター板、セーフティマット、掲示物，学習カード，　BGM

(3)　展開

	学習内容・活動	指導上の留意点○指導◆評価
導入	１．基礎感覚づくりとグループ連続跳びを行う。 ・カエル逆立ち　・ペア，トリオ馬跳び　・　トントン前転　・首倒立（アンテナ）　・頭倒立　・倒立ブリッジ（アンテナブリッジ）など	○腕支持やひざの伸び､両足での踏切や着地など動きの基本的なポイントを確認する。 ○BGMに合わせて,テンポよく2台の跳び箱を跳んでいく。
展開	３．学習のめあてを確認する	○めあて・学習の流れ・ルール等を掲示し，学習の見通しが持てるようにする。
	ルートマップをもとにした自己の挑戦課題を持ち,よりよい動きの習得に向けた練習を選択しよう。	
	・これまでの活動をふり返りながら，局面動作基準表をもとに７つの運動局面を確認する。 ①助走②予備踏み切り③両足踏み切り④体の投げ出し⑤着手⑥突き放し（回転・翻転）⑦両足着地	○よりよい動きを習得していくために,どんなことを大切にすればいいかポイントを確認してから活動に移るようにする。
	４．自己の挑戦課題に応じて練習を選択して取り組む。【チャレンジタイム】	○練習の場に図やイラストを掲示して,教え合いながら動きの達成を目指せるようにする。
	５．より良い体の動かし方について考える。【アドバイスタイム】	○前時までの良いアドバイスの例を紹介し,アドバイスの仕方を確認する。 ○友達の動きの良さや上手なアドバイスをしている児童を紹介し，全体に広げる。
	６．できるようになった動きを確かめながらステップアップをする。 【ステップアップタイム】 ※新たな挑戦課題の設定	○一連動作の最終局面である着地を安定させるよう声がけする。（回数連続、距離など） ○次時への挑戦課題を見つけるようにする。
まとめ	５．学習の振り返り ・学習を振り返って，気づきを伝え合う。 ・全体で学びの価値づけをする。	◆活動グループで友達の動きの良さや頑張りについて高まったところを伝え合うことができる。（観察） ○全体で頑張りを認め，称賛する。